

NACSIS-CAT における品質の向上と ILL 業務の改善

世界に羽ばたけ NACSIS-ILL

1. はじめに

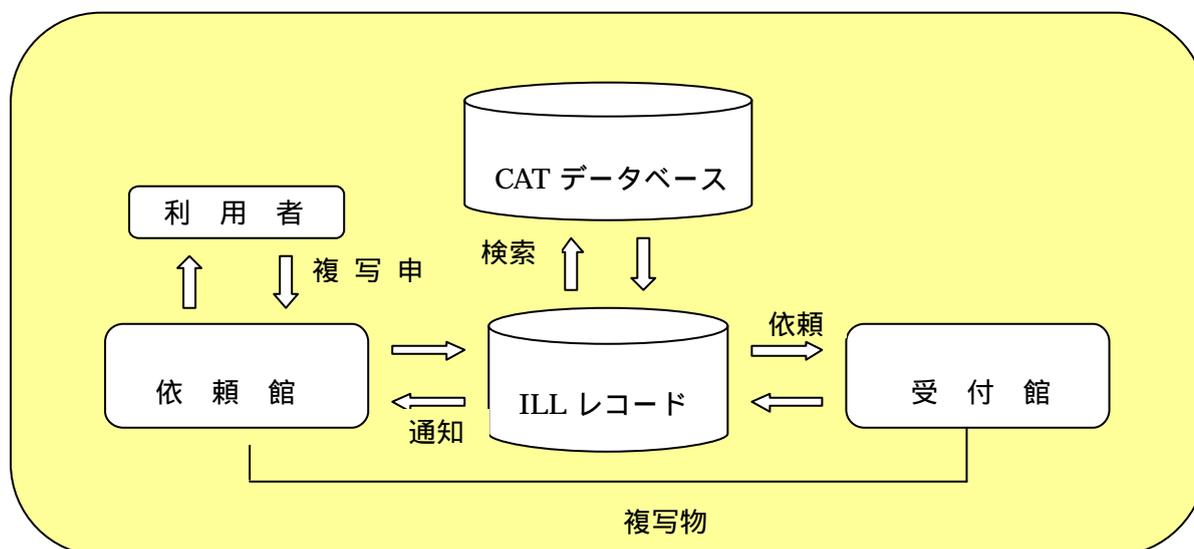
総合目録データベースの品質管理といえは、重複書誌の調整に代表されるような図書書誌データに関するものが多い。幸いこの問題に関しては、NII をはじめ各参加館の努力により、講習会やマニュアルの整備が進んでいる。

雑誌の目録に関してはどうか。図書の場合は、書誌作成と同時に所蔵も登録されるのであまりトラブルは生じないが、雑誌の所蔵データは1度の登録で完結するものではなく、日々の受入業務によるものがベースとなり、随時更新されていくという性格をもつ。最近の学術研究は、まず雑誌論文から始まると言っても過言でない昨今、このレポートでは、雑誌目録に限定し、データベースがもつ重要性を ILL 業務との関連から考えてみることにする。

2. 論文検索データベースの普及と ILL 依頼件数の増加

ILL とは、図書館間での文献複写や、図書の現物貸借に関わる業務を指す。NACSIS-ILL は、参加館の所蔵しているデータを検索し、該当の資料を所蔵している館との間で、依頼・受付をリアルタイムで行えるシステムである。[図1]

図1 NACSIS-ILL 業務の流れ図



ILL 業務においては図書の貸借よりも論文複写の方が圧倒的に多く、利用するデータベースもほとんどが雑誌であると思われる。[図2]

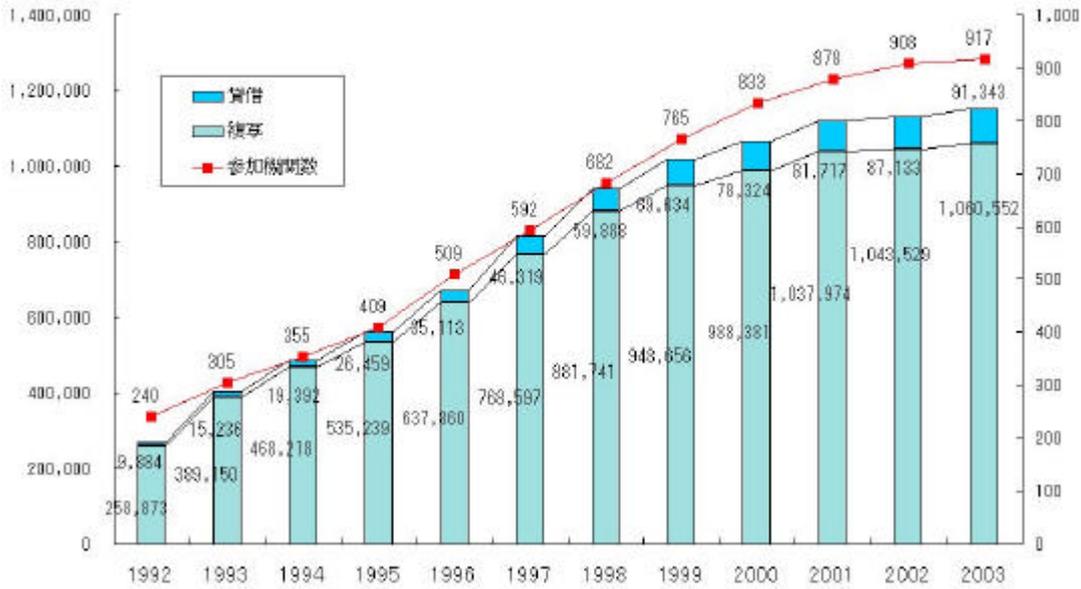
図でもわかるように、ILL 依頼件数は年々増加している。この原因としては、

- ・ 利用できる検索データベースがふえ、論文検索が容易に行えるようになった
- ・ 特に自然科学系の分野では研究の進展が早く、速報性のある雑誌への依存が大きい
- ・ 膨大な数の学術雑誌のうち所蔵しているものはわずかで、その他は複写物に頼らざるを得ない
- ・ 料金相殺サービスの導入により複写申し込みが手軽に行えるようになった

ことなどが考えられる。大学の予算が削られ雑誌購読打ち切りが進めば、複写物に依存する傾向はますます高まっていくと思われる。

図2 NACSIS-ILL 依頼レコード件数

NACSIS-ILLによる依頼レコード件数及び参加機関数の推移



(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_reqnum.html)

3 . NACSIS-CAT における雑誌目録の現状

NACSIS-CAT の雑誌データベースについては、今回の研修の講義にもあったように、所蔵データ更新がスムーズに行われているとは言い難い。また雑誌はタイトル変遷が複雑なため、気がつかずに誤った書誌に所蔵データを登録するというミスも発生している。雑誌目録業務というものが、受入業務の一環として行われることも多く、十分に理解していない担当者が業務に携わっているケースが多いのではないかと。各館における雑誌目録の作成現場はどのような状況になっているか、この研修の参加者にアンケートをとってみた。[表1]

表1 各大学の雑誌目録に関するアンケート結果

2004.12 現在

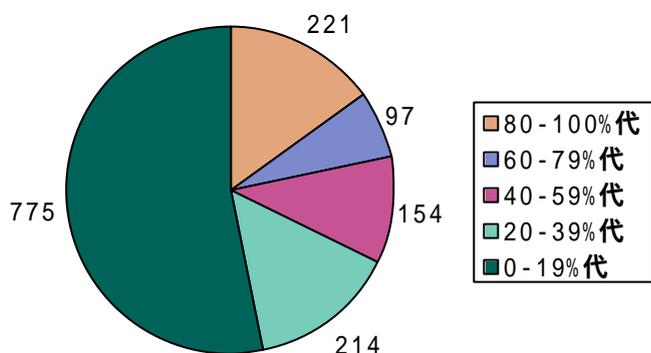
大学名	問1	問2	問3	問4	問5	備考
A	目録情報係	目録情報係 雑誌担当 &財務部	×	学総目作業時		特にローカルデータが分かりにくい
B	目録掛	受入掛&目録掛	×	学総目作業時	×	データの更新頻度は、担当者(和洋)によって異なる
C	学術サービス係	学術サービス係 & 学術管理部	×	年1度		受入担当者は図書系職員でない
D	図書管理係	図書管理係		学総目作業時		学総目作業時に中止、新規雑誌についてのみ更新
E	整理担当	雑誌センター	×	3~4ヶ月に1度		図書地域講習会は受講済み
F	電子情報系	雑誌情報系	×	学総目作業時	×	適正にデータ更新が行われていないためOPACレベルでもデータ不具合あり
G	情報システム課 図書整理係	受入係		チェックインごと		講習会受講者2名
H	情報システム課 目録情報係	情報管理課 雑誌受入係		不明	不明	
I	目録係	雑誌係		チェックインごと		体制は、アウトソーシング

- 問 1： 図書目録を担当しているのは？
- 問 2： 雑誌目録を担当しているのは？
- 問 3： NACSIS-CAT 目録講習会（雑誌コース）の雑誌担当者参加状況は？
- 問 4： NACSIS-CAT 雑誌所蔵データの更新頻度は？
- 問 5： NACSIS-CAT 雑誌所蔵データの適正管理について？

目録講習会においても雑誌目録は別になっており、学習する場は非常に少ない。担当者も図書のように専門の係ではなく、雑誌目録に精通していない現状がうかがえる。所蔵データの更新は、最低でも学総目作業時には行われているが、4年に1度の更新が適正なデータと言えるかどうか疑問である。

雑誌目録においては、所蔵データが重要な意味をもつ。所蔵データは各館が定期的に更新維持していくものであるが、全国的に見ても、その作業が適切に行われていない状況がある。[図 3]

正しく信頼できる所蔵データが作成されていなければ ILL の受付候補館となれず、選択の幅がせばめられることになる。依頼館としても、明らかに更新されていないような所蔵データに対しては安心して依頼できない。品質のよい所蔵データであることがさらに必要になっていく。



継続所蔵未更新比率

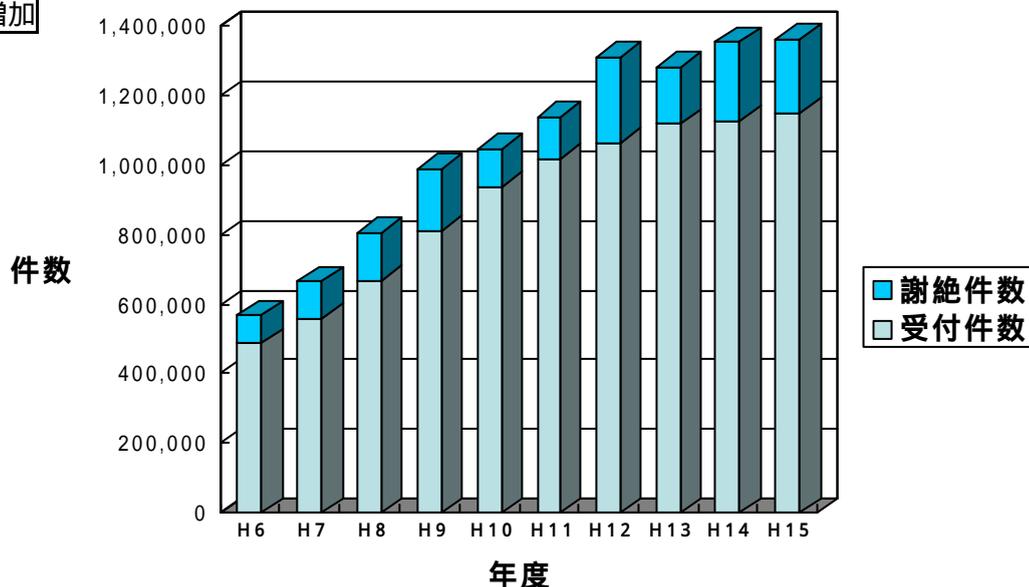
図 3 所蔵データ更新状況

4 . ILL 業務の現場では

ILL の現場では、依頼する側（依頼館）とされる側（受付館）で、つねに次の2つの問題が生じている。

1つ目は謝絶の問題である。所蔵館が複数あったとしても、複写してもらえるかどうかはまだわからない。所蔵しているはずと思って依頼したのに、意外と謝絶されることが多い。 [図 4]

図 4 ILL 謝絶件数の増加



謝絶の理由として、次のようなことが考えられる。

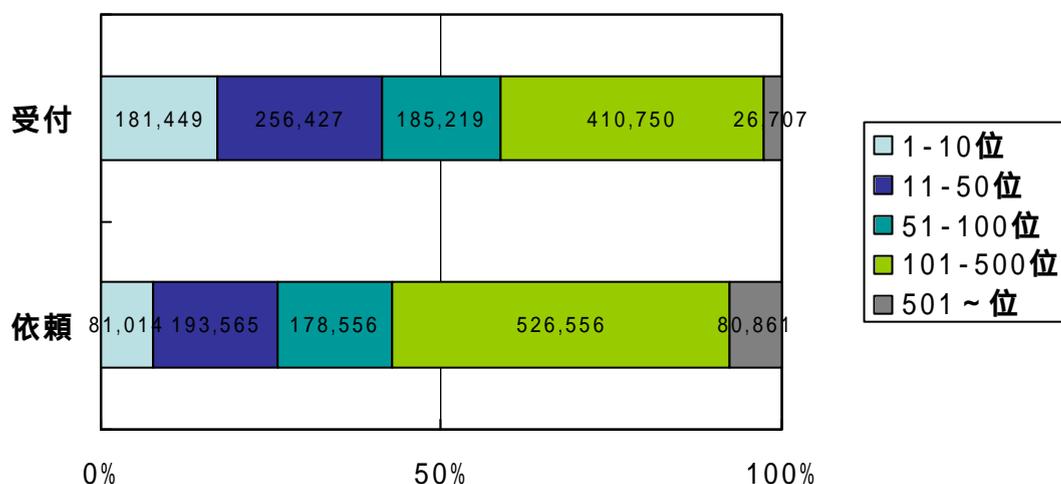
- ・ 受付件数はふえているが、人手が足りなくて処理しきれない
- ・ 所蔵はしているが、該当の資料が見当たらない
- ・ 研究室所蔵の資料は複写の対応をしていない
- ・ 研究室で所蔵しているが、教員と連絡がつかない
- ・ 受付館側の運用上の制限（内部的な取り決め、その時の担当者の都合 など）

2 つ目は特定館への依頼集中である。依頼館としては、1 日でも早く、できれば安く入手したいので、確かなところ、早いところ、できればまとめて1 箇所へ、というような思惑があり、雑誌を集中管理しているような大規模館へ依頼が集まりやすい。[図5]

料金相殺サービスにより、私立の参加など以前に比べれば対象館はふえたが、不参加館に対しては、所蔵があっても頼めないという現状がまだまだ残っている。

図5 各館の ILL 受付件数

平成15年度ILLレコード件数ランキング (受付・依頼)



5 . NACSIS-CAT の品質についての問題点

4 . では各参加館の運用上の問題について述べたが、NACSIS-CAT に関連する問題もある。ILL 業務においてもっとも重要な作業は、書誌確認と所在調査である。いうまでもなく、NACSIS-ILL は総合目録データベース参照のうえになりたっている。ILL 業務を行っていると、目録データの不備の多さに嘆くことが多い。

書誌に関する問題点としては、

- ・ 類似した誤ったタイトルに所蔵が付けられている
- ・ タイトル変遷に気がつかず、誤った書誌に所蔵が付けられている。
- ・ 重複書誌があったり、図書・雑誌の両方に書誌があることにより所蔵が分散している

ILL においては、所蔵しているのに受付候補館とならない、所蔵していないのに受付候補館となってしまう、受付候補館の数が少なくなる、などの弊害が出てくる。原因としては、単純なミスや、担当者の目録の知識が十分でないことが考えられる。

所蔵に関する問題点としては、

- ・ ローカルでは所蔵データをつくっても、CAT には未登録
- ・ 電子ジャーナルを契約しているが、CAT には未登録
- ・ 所蔵データが更新されていないため、最近の号については所蔵しているか怪しい
- ・ 大学によっては、配置コードで図書館・研究室が区別できない

まず受付候補館の数が制限される。怪しいデータは、依頼しても謝絶されるのではという心配が出てくる。原因としては、CAT とローカルの受付データとの連動ができていない、所蔵していても ILL の対象とで

きない事情がある、所蔵登録・更新の手間がない、担当者の目録に対する理解不足、などが考えられる。

NACSIS-CAT においては、雑誌目録に精通した担当者の養成と、書誌データの品質向上、所蔵データの定期更新が望まれる。

6 . NACSIS-CAT の品質向上と ILL

NACSIS-CAT/ILL においては関連する部分が多く、ILL 業務において信頼できるデータベースが求められている。ILL で望まれる目録データベースとはどのようなものだろうか。

- (1) 正しい書誌 (重複のない書誌) が作成されること
- (2) 書誌の登録数がふえること
- (3) 所蔵登録館がふえること
- (4) 所蔵データができるだけ最新の状態であること
- (5) ILL で利用可能かどうか判断できること

(1) については、担当者の研修が不可欠である。現在は研修の場が非常に少ないが、今後雑誌データベースが重要になってくることを考えれば、標準講習会の中に盛り込まれるべきである。現在雑誌書誌の新規作成、修正、変遷作成などは、ほとんどが特定の館によってのみ行われている。

(2)(3) については、登録促進、遡及入力が必要だが、自主的には行われにくいので、まず NII からの呼びかけが必要であろう。各館で登録する・しないの基準作成も必要で、すすんで登録すべき資料としては、図書館で所蔵しているもの、古い資料や地域色の強いものなど所蔵館が少ないであろうと思われるもの、バックナンバーなどである程度まとまって購入したもの、製本済みで分散する可能性のないものなどがある。

電子ジャーナルの ILL への利用も、年々拡大されてきている。しかし現状の登録方法では各館の負担が大きく、パッケージ単位での登録の方が現実的で、書誌の正確性よりも利用のしやすさを優先すべき場合もある。今後の取り組みを NII でも検討しておられるので、負担の少ない方法であれば、タイトル数の多さから見て有効利用を期待したい媒体である。

(4) については、まず学総目作業の徹底がある。各館の更新状況にはかなりの差があり、意識の違いやローカルシステムとの連動など、まず各館での体制づくりが必要になってくる。

来年度より学総目作業は 2 年に 1 度、和洋あわせての作業になるが、これに合わせるために、各館でも作業の仕組みを考え直すよい機会になると思われる。事前に行われる説明会を利用して、簡易講習会や、作業への取り組み方についての情報交換、先進館の事例発表など内容を有意義なものにし、担当者の知識、技術の向上をめざす。さらに学総目作業時のみでなく、所蔵更新を業務の 1 つと位置づけ、各館で計画を立て、手の空いたときに更新作業を行う体制をつくる。

(5) については、資料の配置場所として、図書館かそうでない (研究室) かが明示されていると、依頼時の判断基準にしやすい。依頼館としては、図書館での所蔵が確認できていれば優先してお願いすることができる。現在は大学名だけの配置コードにしているところが結構あるが、最低「図書館」を別につくって管理してもらえると、依頼先を分散することができる。

以上のように、CAT データの品質向上によって ILL 業務の効率が上がれば、謝絶や一部の館への集中も緩和されるのではないだろうか。

7 . おわりに

インターネットは、世界中のデータベースのアクセスできる可能性を生み出した。海外の論文への需要が高まり、逆に海外からの複写依頼もふえてきている。ILL は海を越えることになった。その先駆けであるグローバル ILL においても、業務を支えていくのは NACSIS-CAT の信頼性である。

各参加館の事情はさまざまであるが、大学図書館のみ、国内のみにとどまらず、世界に羽ばたく ILL として、またそれを支えるデータベースとして、各館において品質向上に向けての取り組みが進むことを期待したい。

